

八、日本聖公会主教會教書（一九七二年（昭和四七年）一月一日）

私たちの主イエス・キリストに在ってたがいに兄弟姉妹たる各位

昭和四七年、救主降生一九七二年の年頭にあたり、私たち日本聖公会の主教一同は、忠信なる各位の安否を問い、かつ各位の上に私たちの父なる神及び主イエス・キリストより賜う恩恵と平安のいよいよ豊かならんとを祈るものであります。

さて、この昭和四七年、救主降生一九七二年は、既に各位におかれても充分ご承知の通り、わが日本聖公会の歴史において、まことに画期的な記念すべき年となったのであります。久しぶりに日本聖公会という一家庭のうちに、実に沖縄教区という一人のみどり子が与えられたのであります。

沖縄教区は、従来、米國聖公会に所属する一伝道教区でありましたが、本年一月一日を期して、わが日本聖公会の一教区としての誕生を見たのであります。これはただ、ひとり沖縄教区の喜びであるのみならず、私たち全日本聖公会としての、まことに大きな喜びであります。私たちは今日、この大いなる喜びを私たちに賜った私たちの父なる神の御前に、まず心からの感謝を献げなければならないとともに、また、今日ここに至るまで陰に陽に絶えず多大の援助を惜しまれなかつた米國聖公会に対しても、深甚の謝意を表わさなければなりません。と同時に、私たち日本聖公会の全家族員としては、また心を一つにして、この新生の弟妹のために、その将来のために、熱き祈りと兄弟らしい充分の具体的な心づかいとを注ぎ持つことを、決してゆるがせにしてはならないのであります。

しかしながら、久しぶりに一人の弟妹が誕生した―久しぶりに私たちの家庭にもう一人が増し加えられた―というこの事実は、その家庭―ことに豊かならざる家庭―にとつては、それは大いなる喜びであるとはいえ、また同時に決して容易ならざる事柄であることは、私たちの日常生活経験からも容易に理解し得るところであります。おそらく、その家庭にとつては、ここで従来の生活設計を大きく反省検討し、将来への新設計を家族一同それぞれの新たな決心をもって樹立しなければならぬという、それは一つの大きな契機となるに相違ないのであります。しかも、神は今や沖縄教区という一人の弟妹を、日本聖公会のうちに増し加えられたのであります。この事実はまさしく、日本聖公会にとつては、従来の姿を深く反省検討し、あるべき将来の姿を、新たな熱意と覚悟とをもつて、ここに設計し直すべき天与の契機として、意味づけられていると言わなければなりません。されば今や、私たちの愛と関心の的なる新生の沖縄教区をも含めて、私たち日本聖公会の全員は、神の私たちに与えたもう一つの契機として、この沖縄教区新生の事実を謙虚に、かつ真摯に受容し、この時期、この時代における私たちの歩みを反省検討し、改むべきは改め、捨つべきは捨て、持つべきは持ち、保つべきは保ち、この時代における私たちの愛のあかしを具体的に実現することに努めなければならないのではないのでしょうか。しかも、かかる愛の具現こそ、逆にまた、沖縄教区の新生が実は私たちへの天与の契機であったことを私たちに納得せしめ実感せしめ得る最善の道にはかならないのではないのでしょうか。

最後に、敬愛する沖縄教区の聖職信徒各位に一言、申し添えたいと存じます。各位の選ばれた道は、それは大いなる喜びの道であるとは言え、また決して容易ならぬ難道でもあります。しかも、敢てこの難道のみずから選ばれた各位の勇氣と信仰に対して、私たちは満腔の敬意を表するとともに、また沖縄教区と各位の今後の歩みについて、心からの祈りを献げ、かつ大きな期待をもっているであります。沖縄教区の聖職信徒各位が協力一致、今後共教区育成の一路を邁進し続けられ、もつて神の栄光と公会の建徳のためにつくされんことを心から祈つてやまない次第であります。

私たちはつい先日、御降誕祭を祝ったばかりであります。私たちの脳裏には、あの愛と平和と一致と犠牲とを象徴した美しい聖家族のイメージが、まだなお鮮明に刻み残されております。こいねがわくは 先なる者も

後なるものも日本聖公会の全家族があいたずさえて、協力一致このクリスマスのイメージを具現させたいものであります。

(特 務) 沖繩教区のため

天地万物を治めたもう全能の神よ、あわれみをもつてわれらの祈りを聞きしめし、新たに生れし、沖繩教区を祝し、霊的進歩に必要なものを与え給え。願わくは聖職と信徒に恵みをくだし、信仰厚き者を強めてその数を増し、病める者を慰めてこれをいやし、幼き者を祝してこれを守り、悪に陥る者をひるがえして善に向かわせ、眠れる者をさまし、倒れたる者を起し、悔ゆる者を赦し、琉球諸島にあるすべての未信者を主の救いに入らしめたまえ。願わくは主の道の妨げを除き、主の御名をとのうる人々ことごとく聖公会のうちにありて一致親愛することを得させたまえ。主イエス・キリストによりてこい願ひ奉る。アーメン

救主降生一九七二年一月一日

日本聖公会 主教 会

議長	北関東教区主教	ヨハネ	大久保	直彦
	東京教区主教	ダビデ	後藤	眞
	京都教区主教	マタイ	森	譲
	大阪教区主教	マルコ	小池	俊男
	横浜教区主教	ステパノ	岩井	克彦
	中部教区主教	パウロ	小笠原	重二
	東北教区主教	サムエル	今井	正道
	北海道教区主教	ヨハネ	渡辺	政直
	九州教区主教	パウロ	久保淵	豊彦